

はじめに

問い (本研究で明らかにすること)

同じ言葉遣いで話した時にどんな態度によって
良い印象となるのか

背景

言葉遣いと態度の関係を調べて高校生同士で言葉遣いを気にしなくても良い印象を持たれるようになりたい

意義

言葉遣いと態度によって、相手にどのような印象をもたらすのかを知ること、**初対面の人への対応にどんな方法が効果的か**という方針が決まる。効果的な方法が普及することで、高校生の初対面の会話を円滑に進め、良い印象を与える手助けとなる。

まとめ(結論・考察・今後の展望)

問いの答 (本研究で明らかになったこと)

まっすぐな姿勢で話すとより良い印象になる

◆ 敬語+まっすぐな姿勢、省略+前のめり

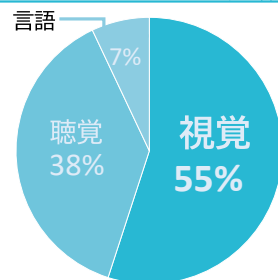
⇒ **言語と視覚(態度)が一致**

◆ 省略+まっすぐな姿勢

⇒ **メラビアンの法則**

コミュニケーションにおいて**非言語情報が重視される法則**。

⇒ **より良い印象に**



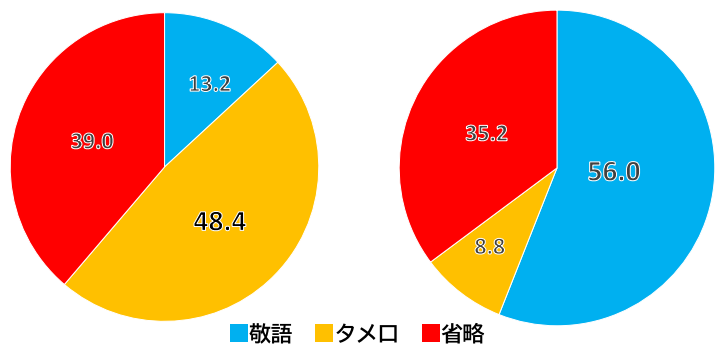
研究対象と方法

研究対象：希望ヶ丘高校の生徒1,2年生

《予備実験》

- (1) ①敬語(です・ます調)
②タメ口(敬語を使わない、相手と対等の立場で話す)
③省略(タメ口よりもさらに砕けた話し方、助詞を省く)の3種類にわけて文章を話し、録音する。
- (2) (1)で録音した音声の印象を4段階で評価してもらう。

一番印象が良かったもの 一番印象が悪かったもの

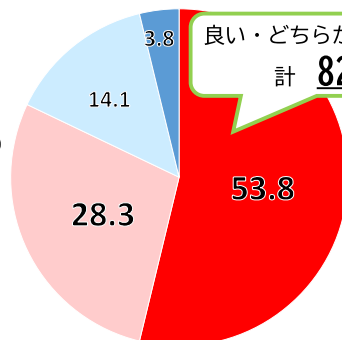


《本実験》

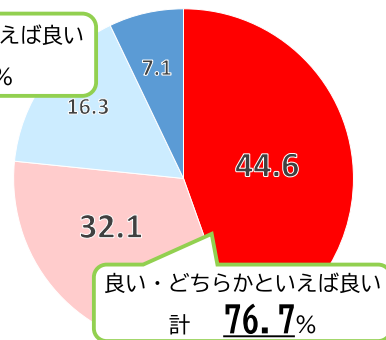
- (3) (1)で使用したうちの敬語・省略の音声に
①まっすぐな姿勢②スマホを持つ
③前のめりに座る④ 頬杖をつく
の4種類の姿勢の写真を組み合わせた動画を見てもらう。
- (4) (3)の動画の印象を4段階で評価してもらう。
- (5) (4)で得られた結果から、2つの音声で姿勢によってどのように変化したかを調べる。

結果

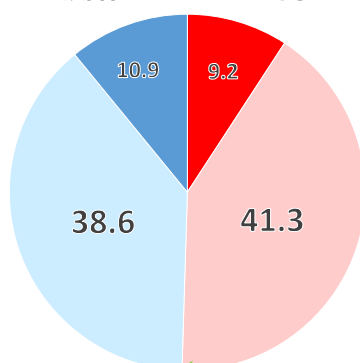
敬語+まっすぐな姿勢



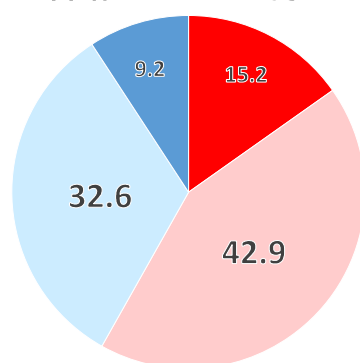
省略+まっすぐな姿勢



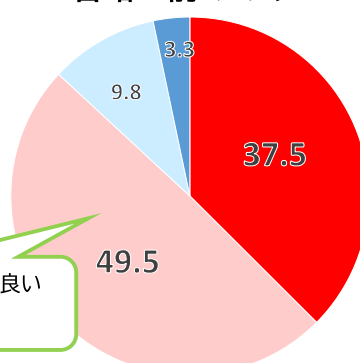
敬語+スマホを持つ



省略+スマホを持つ



省略+前のめり



■ 良い ■ どちらかといえば良い
■ どちらかといえば悪い ■ 悪い

良い・どちらかといえば良い
計 **87.0%**

